

通級指導教室の役割と通常学級における 発達障害を抱えた児童生徒への対応について

①はじめに (5分)

②杉の子の紹介 (5分)

③障害者差別解消法について (5分)

* 合理的配慮とインクルーシブ教育システム

④支援の実際 (40分)

⑤まとめ (5分)



誰もが学びやすい学校をめざして

発達に遅れや偏りのある子のかかえる困難とその支援

筑波大学附属大塚特別支援学校 主幹教諭 地域支援部長

安部博志



先日、ある小学校の4年生のクラスを訪問した。このクラスには、衝動性があり友達と頻繁にトラブルを起こすA君がいた。ひと通り授業を観察して、放課後に担任と話をする時間をとった。すると、

「A君は、授業中に勝手に教室から飛び出るので困っています」「何か思いついたことがあると挙手もしないで発言するので困っています」「机の中がぐちゃぐちゃで、プリントを家に持ち帰らないので困っています」…担任の先生は熱心に私に訴えた。

私は質問をしてみた。「ところで、A君自身が困っていることは何ですか？」と。すると、その先生はキョトンとして何も答えることができない。つまり、困っているのは先生自身であり、子どもが困っていることに思いを馳せることができないのである。

授業中に教室から飛び出るのは、A君なりの理由がある。授業が退屈でつまらない。先生の話がさっぱりわからない。活動の見通しがもてなくて落ち着かない。もしかすると、友達が挙手する際の「ハイ、ハイ」という声がうるさくて、耐えられないのかもしれない。

子どもが抱えているこうした困難に思いを巡らせることができれば、もっとわかりやすく魅力的な授業を工夫したり、クラスにおける学び方のルールを考えたりするはずである。

「困った子」ではなく、実は「困っている子」であるという認識に立つところから支援の第一歩がはじまる。しかし、これが現実にはなかなか難しい。特別支援教育の課題の本質が、ここにあるような気がしてならない。

教室には、困っている子どもがたくさんいる。いつもボーッとしている子、注意が転々としてしまう子、文字の読み書きが難しい子…こうした子どもへの配慮や工夫は、クラスのすべての子どもたちにとってメリットがある。つまり、特別支援教育の視点から環境や授業改善を進めることは、教育実践全般を高めることにつながるのである。教育のユニバーサルデザインと言われる所以である。

(筑波大学付属大塚特別支援学校 主幹教諭 地域支援部長 安部博志)

「困った子・困らせられる子」は、実は「困っている子」なのです。
信じてください。

通級指導教室「杉の子」



通級指導教室「杉の子」



杉の子ちゃん



《こんな子どもたちの支援をしています》

自分に自信をなくしている子が、自分の在籍する学級で、その子らしく、元気に学び生活できるようになるための支援を学級担任と連携して行います。以下のような学習や行動の力を育てるための支援や指導を行っています。

- ・ 少しの失敗で傷ついてしまいどうしたらよいか分からなくなってしまう子に、失敗したときの対処の方法を指導します
- ・ 友達に自分の思いが上手く伝えられずに困っている子に、コミュニケーションスキルを指導します。
- ・ アイデアにあふれているのに、一斉指導の場で集中して聞いたり見たりすることが苦手な子に、集中する力をつけるための遊びやトレーニングをします。
- ・ 他の勉強はできるのに計算方法が覚えられない、本はすらすら読めるのに漢字は覚えられない子などに、その子にあった学び方を探したり指導したりします。

《通級について・その他》

○市内の小学校の通常学級に在籍する児童で、通級指導を希望する方が通級しています。なお、通級は学校や教育委員会の承認を受けて許可されます。

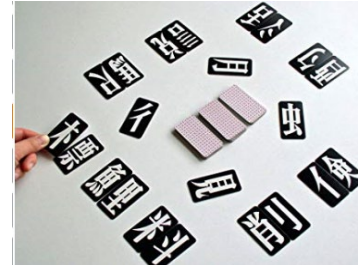
○通級回数の基本は、週2回で1回45分間です。（他校からの通級は週1回、60分間）

指導時間は在籍する学級での授業時間と見なされます。

※通級指導教室「杉の子」を利用したい、見学や体験をしたいと思われる方は、担任を通してご相談ください。

こんな指導・活動をしています

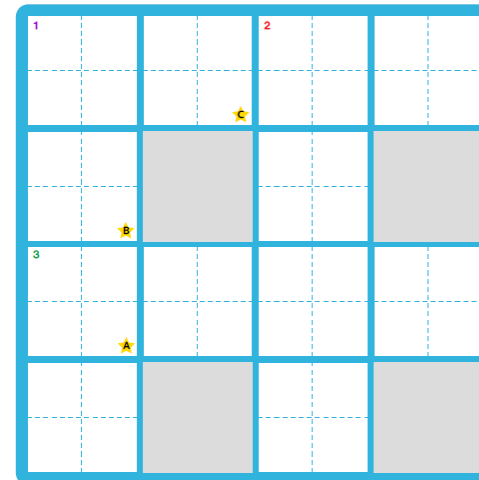
- 苦手さを知る
- 漢字作りゲーム
- カタカナクロスワード
- 運動 (トランポリン、ストラックアウト、バドミントン、卓球、バランスボール 等)
- SST
- 聞き取りトレーニング
- 間違いさがし
- さがし算



漢字作りゲーム

クロスワード パズル

ぷりんときっず
<http://print-kids.net/>



たてのかぎ

- 1: うみ や プール、みず の なか で およぐこと。
- 2: おたんじょうび ケーキ の うえ に たっていて、ひ を ふきけます。

よこのかぎ

- 1: さいころ の でた かず だけ こま を すずめて あそぶ ゲーム の なまえ。
- 3: ようちえん や がっこう で、とおく へ でかけて しゃかい けんがく すること。

こたえ

A	B	C



その1

●お話をよく聞いて、字をマスに書こう。

	ア	イ	ウ	エ	オ
1	び	か	え	み	す
2	あ	や	ん	や	が
3	と	と	う	り	る
4	こ	ず	け	ら	も
5	め	っ	き	ゆ	う

(1) (左)

--	--	--	--	--

(右)

(2) (左)

--	--	--	--	--

(右)

(3) (左)

--	--	--	--	--

(右)

(1) (2) (3) は何のなかまでしょう？



★ クラスのルールを守るって

次のお話を読んで、考えてみましょう。

Aさんのクラスでは、給食で おかわりをしたい時には、「12時 30分までに ぜんぶ食べ終わっていたら、おかわりのジャンケンに さんかできる」というルールがあります。給食の時間、先生が「プリンのおかわりがあります」と言いました。12時 30分になるとおかわりしたい子が3人、はいぜん台の前におつまってきました。Aさんはプリンが大好きなので、「おかわりしたいな」と思いました。でも、まだ ぜんぶ食べ終わっていません。



質問 このような時、Aさんはどうしたらいいでしょうか？
あてはまる番号の前に○をつけましょう。

①	ジャンケンをする子たちに「ちょっと、まって！」と言う。
②	食べ終わっていないが、ジャンケンにさんかする。
③	食べ終わっている子に「かわりにジャンケンしてきて」とたのむ。
④	ジャンケンする子たちに「するいよ！」と言う。
⑤	「きょうは、しょうがない」と思って、おかわりをあきらめる。
⑥	

番号をえらんだ理由を書きましょう。

プリントして
使える
CD付き

800
以上

コグトレ



みる・きく・想像するための

認知機能強化トレーニング

文芸春秋出版・医学博士 宮口幸治



三輪書店

Learning Calculation 60

計算力がぐっと上がる！ 頭の回転が速くなる！

もっと **コグトレ**

さがし算 ^{ぜん}60

文芸春秋出版・医学博士 宮口幸治

・初級・

足して11になるのはどれ？

2	7	6
7	2	3
7	8	6

たのしい
くあそびの
さがし算
をしよう！

どうやって
さがせば
いいのかな？

認知能力を
高める
さがし算で

思考スピードが速くなる！
記憶力が向上する！
計算力が高まる！

困難さの改善、克服のための「杉の子」

それだけではありません★★

- * その子の良さ・得意なこと・好きなこと・今もっている力を見つけ、一緒に楽しんでいます。
- * その子の居場所、保護者の居場所を目指しています。
- * 「それでいいんだよ」といつも味方である場所でありたいと思っています。
- * 子どもを真ん中にして、保護者・担任の先生とのつながりを大切にしています。

障害者差別解消法

- ◆平成28年4月1日 施行

正式名称＊「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」

『この法律は、障害のある人もない人も、互いに、その人らしさを認め合いながら、**共に生きる社会**をつくることを目指しています。』

※内閣府HPより

共生社会

社会が、どれだけ多様な人々に合わせていけるか。園や学校が、多様な子どもたちがいることを前提に変わっていけるかが問われる。

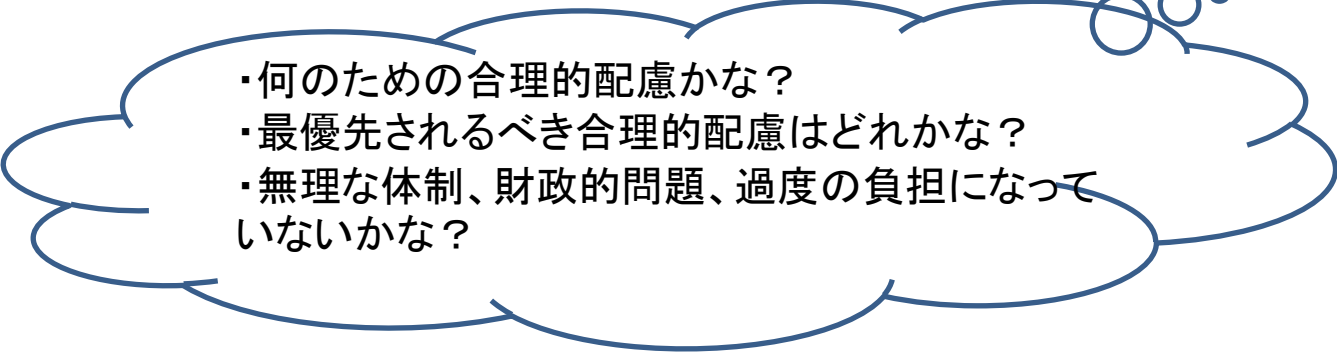
学校は「共生社会の担い手」を育む場

合理的配慮

合理的配慮を行うには・・・

本人・保護者の要望を受けて、合意形成を図りつつ、検討・決定する

。

- 
- ・何のための合理的配慮かな？
 - ・最優先されるべき合理的配慮はどれかな？
 - ・無理な体制、財政的問題、過度の負担になっていないかな？

- ・ 実際に、どんな合理的配慮を行っていますか？

合理的配慮の具体例

【LD・ADHD・自閉症等】

- 個別指導のためのコンピュータ、デジタル教材、小部屋等の確保
- クールダウンするための小部屋等の確保
- 口頭による指導だけでなく、板書、メモ等による情報掲示

【言語障害】

- スピーチについての配慮（構音障害等により発音が不明瞭な場合）

【情緒障害】

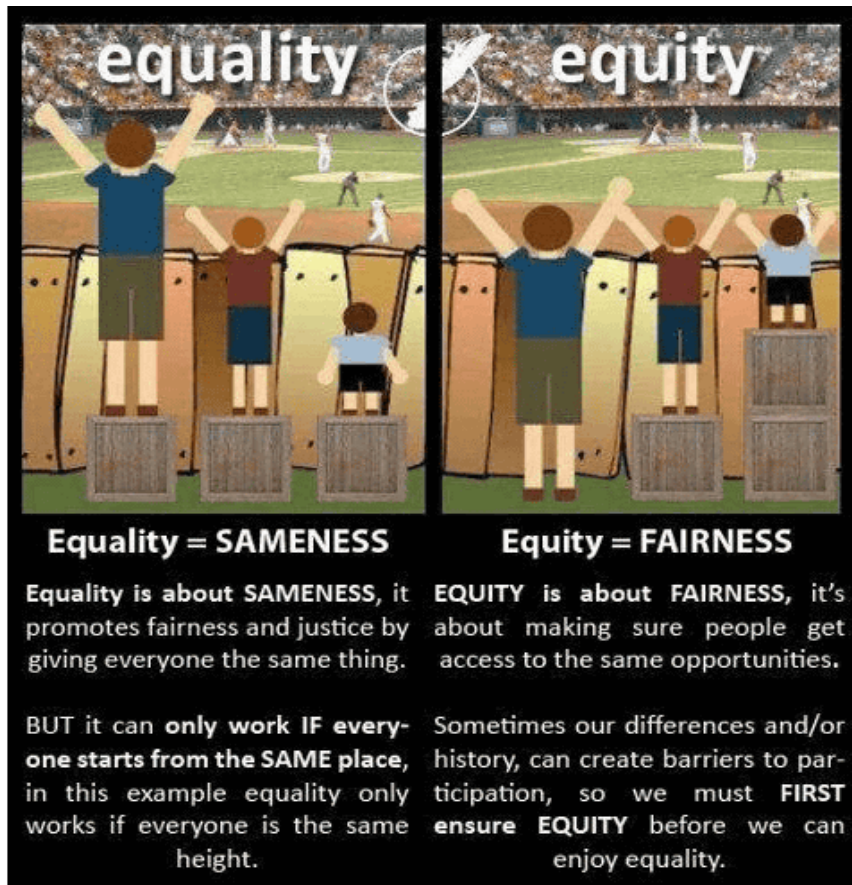
- 個別学習や情緒安定のための小部屋等の確保
- 対人関係の状態に対する配慮（選択性かん黙や自信喪失などにより人前では話せない場合など）

文科省HPより

新学習指導要領には・・・

- 資質・能力の育成、各教科等の目標の実現を目指し、児童生徒が十分な学びが実現できるよう、**学びの過程で考えられる【困難さの状態】に対する【指導上の工夫の意図】+【手立て】の例が示されている**

「平等」と「公平」とは・・・？



どちらの絵が、
一人一人に合わせた
支援でしょうか？

インクルーシブ教育システム とは・・・

人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が「general education system」(署名時仮訳:教育制度一般)から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供される等が必要とされている。

障害者の権利に関する条約第24条より

インクルーシブ教育システム構築のために・・・

①同じ場で共に学ぶことを追求する。

- ★それぞれの子どもが分かる授業内容かな？
- ★学習活動に参加している実感・達成感をもてるかな？
- ★充実した時間を過ごしていけるかな？
- ★生きる力を身に付けていけるかな？

②個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備すること。

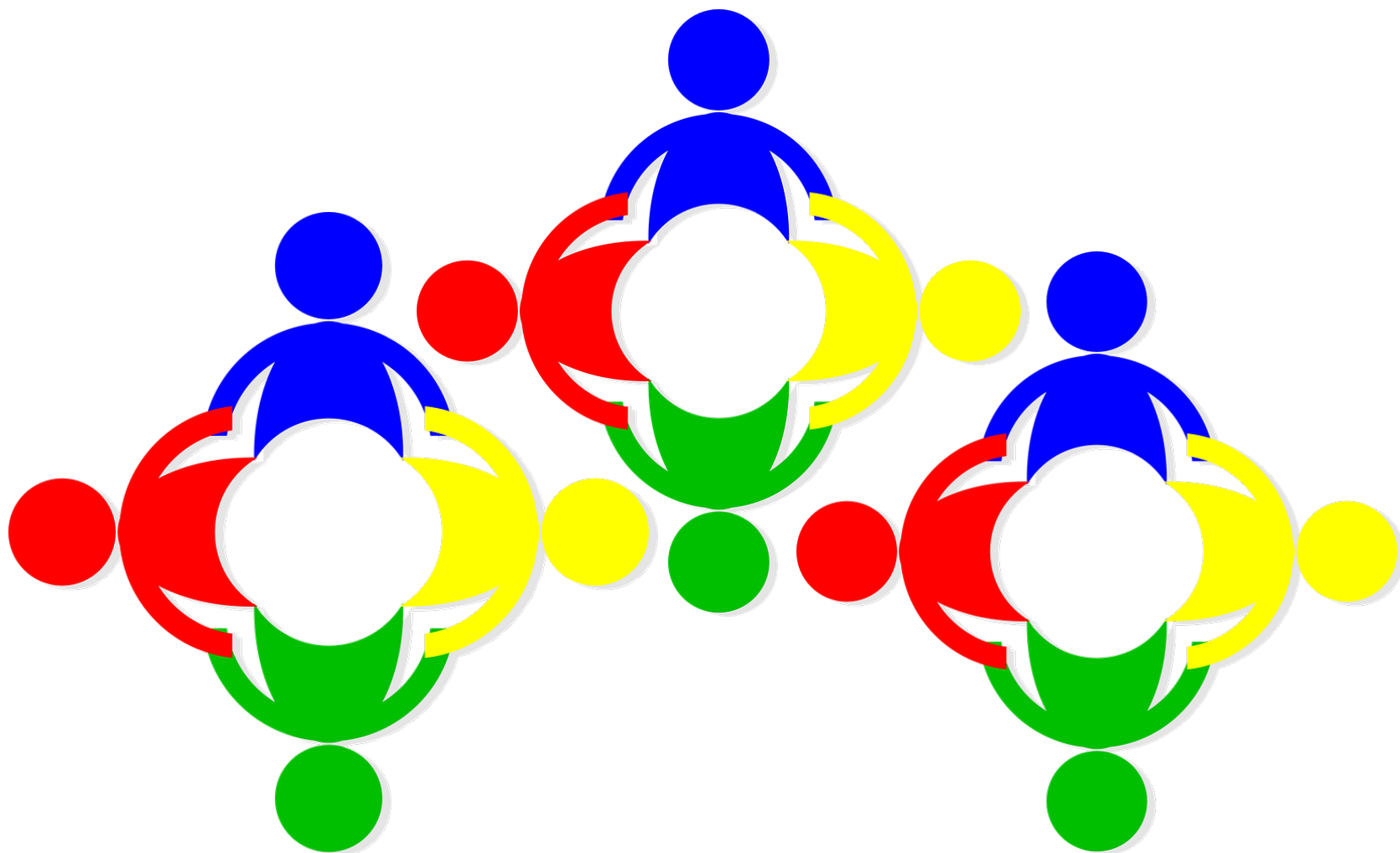
★「つなぐ」

子ども

・保護者 ・全校職員 ・全校児童 ・地域社会
・医療福祉 ・中学校、高校

③小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくこと。

支援の実際



支援の実際

① 少しの失敗で傷ついてしまい、どうしたらよいか分からなくなってしまう子

ア 少し線が曲がると、すぐ消して何度も何度も書き直さないと気が済まない。結局、満足するようには書けずに破いてしまったり、止めてしまったり、課題が終わらなくて泣いてしまったりする。

イ 友達の何気ない一言で深く傷つき、自信を失ったり、意地悪されていると思い込んでしまったり、みんなに嫌われていると思ってしまうりする。

ウ 傷ついていることを隠すため、暴言・暴力で自分のプライドを保とうとしてしまう。

②友達に自分の思いが上手く伝えられずに困っている子

ア 伝えられないので、我慢したりあきらめたりする。
その結果ストレスをためてしまう。

イ 上手く伝えられないので、手や足、暴言が出てしまう。

ウ 「どうせ、分かってもらえない。」「どうせ、俺が怒られる。」と学習してしまい、話さなくなる。無視する。虚勢をはる。

③アイデアにあふれているのに、一斉指導の場で集中して聞いたり見たりすることが苦手な子

ア 思いついたことを言わないと気が済まない。⇒うるさい。

イ 気になる方へ行ってしまう。⇒離席・徘徊

ウ 自分の興味に集中して、指導や注意を聞き取ることができない。⇒手いたずら・いたずら描き・空想

エ 学習の流れに乗れず、飽きる・疲れる・意欲をなくす。
⇒授業妨害する。

④他の勉強はできるのに計算方法が覚えられない、
本はすらすら読めるのに漢字は覚えられない子

ア ノート・予定帳・作文などを書かない。読めない字
で書く。ページを飛ばしたり、逆から書いたりする。

イ 宿題の書き取りをやりたがらない。やっても雑。
ていねいに書かない。間違った漢字を書いてくる。

ウ マスからはみだす。筆算の位をそろえて書かない。

エ 何度繰り返しても、テストに合格しない。

事例1

Aさん 小2 女子 アスペルガー症候群(ASD)

FIQ 90 注意欠陥多動性障害(ADHD)不注意優性型

- ①下校途中、植物や虫など興味がある物に遭遇すると、時間を忘れて見たり取ったりしてしまい、登校や帰宅が遅くなることがある。
- ②やりたいこと(遊び)に夢中になってしまい、寝る前にあわてて宿題をしたり、やりきれなかったりする。翌日の支度も忘れてしまうので、忘れ物が多い。
- ③約束したことや反省したことを“忘れてしまう”ので、本人は“怠けている”とか“うそをついている”つもりはない。(が、同じ失敗を繰り返してしまう。)

楽しみにしている遠足でのできごと

＜遠足の前日＞

担任は、児童と配布したプリントを読みながら、持ち物や注意事項を確認した後、

「赤白帽子をかぶっていきます。赤白帽子、忘れたら、連れて行かないよ～。忘れ物しないようにね～。」

＜当日の朝＞

Aさんは登校後、赤白帽子を忘れたことに気づいて小パニック。気づいた友達「先生に言ってくれば。」

「忘れ物したら、遠足に行けないんだよ。」

「先生に借りてきな。」「言ってきてあげるよ。」

Aさん、さらにパニック。泣き出す。

騒ぎを聞きつけた担任

「忘れ物しないでねって、お話したのになあ。遠足、行けないよ。」

「泣いてても、だめでしょ。自分が悪いんだから。」

「泣いてないで、忘れちゃったときは、どうしたらいい？」

担任のこれらの言葉を聞いて、さらにパニック及び意地にもなって

「もう遠足行かないからいい！ 帰る！」



担任は、

- ①Aさんも「他の児童と同じ指示（プリント配布と説明、声かけ）で、忘れ物をしないで準備や確認ができるようになってもらいたい。」という気持ち（目標）だった。

↑ 無理な目標

- ②Aさんは皆と同じ指示では忘れ物をしてしまうだろうことは、十分予想できていたが、Aさんが「忘れ物をしないで、楽しく遠足に行く。」ための支援方法やその必要性に、担任は気づかなかった。

たとえば、

- * 明日、忘れ物をしないで楽しく遠足に行くには、どうしたらいいか、一緒に考える。必要な支援を本人に聞く。
- * 保護者に電話連絡する。（プリントは保護者に届かない可能性がある。）
- * 赤白帽子は、学校に置いておく。

大切にしたいこと

- * 児童・生徒の困り感に寄り添う。
(NG 怒る・おどす・あきれる・ふざける)
- * つまずきそうなことは、つまずく前に支援策を考える。
(NG 先回りして失敗しないようにすべてやってしまう。)
- * 目標を精選する。(スモールステップ)

<Bさんのプロフィール> 小5男子 FIQ85

注意欠陥多動性障害 (ADHD) ワーキングメモリに弱さがあり短期記憶が苦手。

注意できる時間や範囲が狭いので、周囲のことに気づきにくい。

書字障害 (ディスレクシア) 視点の移動が苦手 (板書を写すのに時間がかかる)

文字を書くのに時間がかかる。

指先の巧緻性が未発達なため、コントロール力が弱い。

画数の多い字は、認識しにくい。

ア 身の回りの整理整頓ができない。机の周りに Bさんの物がよく落ちている。

本人は気づかないことが多い。

イ 「汚い」「ちゃんとして」「また Bさん」などの言葉に反応して、けんかになったり、いじめられていると思ったりしてしまう。(いじめにつながっている。)

ウ 予定帳を書くのを面倒がる。書いても字が雑で本人にも読めない。

忘れ物が多く学習に必要な物がそろわない。

エ 宿題はやらなければいけないと思っているが、集中して取り組めないため、何時間もかかってしまうので、毎日取り組むことが困難。やることも乱雑な文字で、間違いが多いため注意を受けてしまう。

オ 「俺はどうせバカだから。」と自尊心が低くなり、「分からない」「難しい」と思ってしまうとやろうとしない。

カ すぐ忘れてしまう。(覚えていられない。)

A 忘れ物を少なくする。 B 予定帳を機能させる。 C 身の回りを片付ける。 D 宿題を毎日やれるようにする。

支援例

(一般的な支援をしても改善されなかったという前提です。)

- A クリアケースに、教科ごとに必要なものを入れ、クリアケースごとランドセルに入れる。
宿題に必要ない物は、学校に置いておく。
5年生であっても、保護者に一緒に準備確認をしてもらうよう依頼する。
- B 文字数を減らす。(略記をする。こ さ 計ド21 かンド う た き)
黒板を写さず、口頭で伝えて書かせる。
- C 専用片付けBOXを使う。落ちている物、使っていない物を入れる。



教科ごとのクリアケースに必要な物を入れ、ケースごとランドセルに。

D 宿題の量を減らす(相談する)。

書く量を減らす。

- ・マスを大きくする。

- ・筆算の線、記号(＋、×など)は印刷した物を使う。

- ・一枚のプリントの問題量を減らす。

- ・計算スペースを確保する。(狭いと書けない。混乱する。)

- ・プリントを拡大コピーする。

まとめ

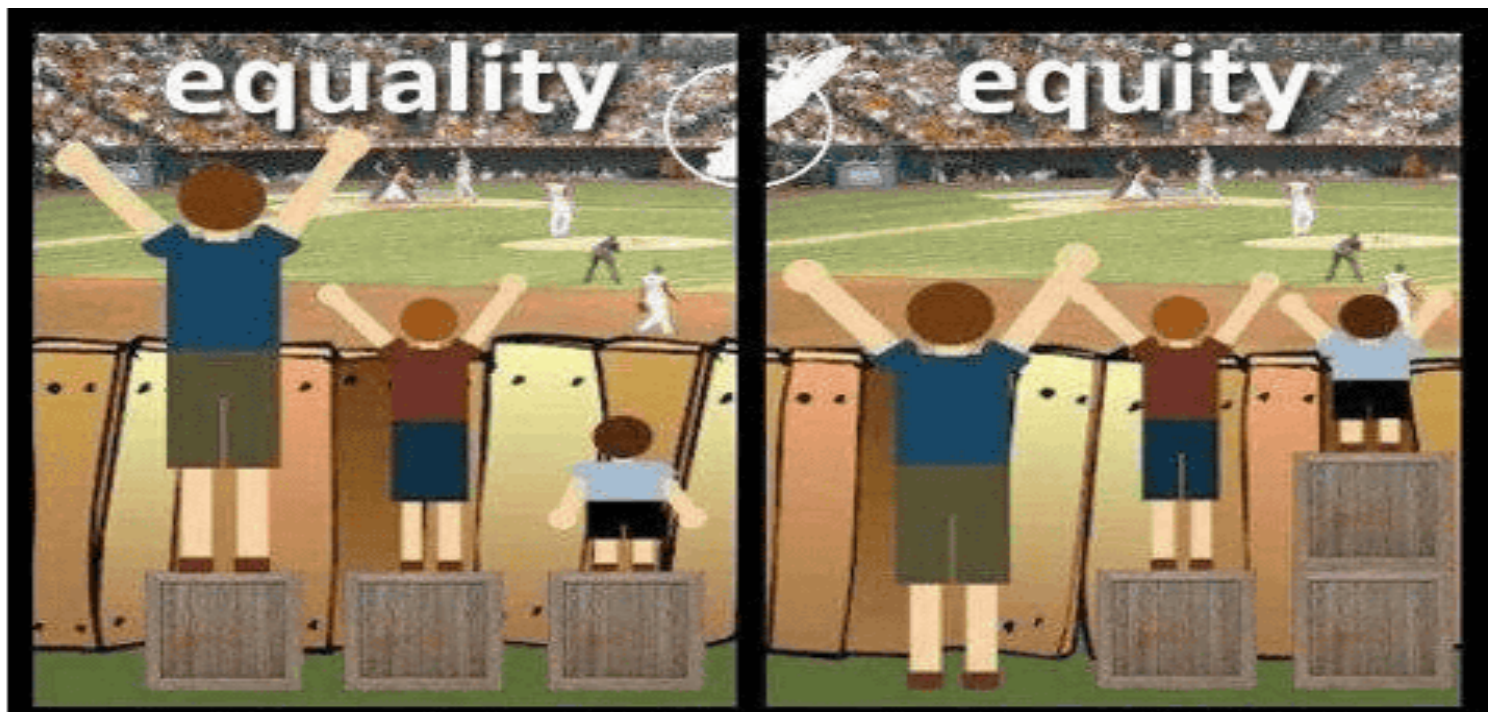
もう少しで終わり！



「この子は、“困っている子”なので、「合理的配慮をお願いします。」



- ①担任一人で大勢を見ているので、できません。
- ②家庭で何とかしてください。
- ③気持ちは分かりますが、一人だけ特別扱いはできません。
- ④特別扱いしては、逆に差別されてかわいそうではないか。
- ⑤そうは言っても、将来を考えるとみんなと同じようにできるようにならないと、困るでしょう。



今までは、どちらかといえば、障害のある子どもが園や学校に合わせてきた。これからは、園や学校が多様な子どもがいることを前提に変わっていけるかが問われる。

そのために変わり続ける社会こそが「共生社会」。学校は「共生社会の担い手」を育む場となる。

「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」(平成24年7月 中央審議会初等中等教育分科会報告)

height.

enjoy equality.

おわりに

特別支援教育コーディネーターとして、これまでたくさんの保護者と面談をしてきた。その中で、教師が何気なく発する言葉で、ひどく傷ついてしまう保護者がいることを知った。

たとえば、「子どもをもっと褒めてあげてください」という言葉である。腹を痛めた我が子であるにもかかわらず、受容することができず褒めてあげることができない親としての不甲斐なさを、教師から責められているように感じてしまうのである。

「学校では問題ありませんが…」という言葉に傷つく親も多い。これは暗に、「家庭の問題でしょ」「学校とは関係ありませんよね」と、冷たく突き放たれたように感じてしまうという。親にしてみれば、たとえ家庭の問題であっても一緒に考えてほしいのである。

寅さんだったら、「それを言っちゃあ、おしめえよう！」と言うかもしれない。でも、やはり最後は「愛」なのである。目標やスローガンを掲げる前に、子どもや親の気持ちに寄り添えるかどうか、そこが問われるのである。

「あなたが、そこでそうしていることにも意味があり、私がここでこうしていることにも意味がある…」

特別支援教育が深化したその先には、お互いの存在を尊重し、異質なもののといえども決して排除しない温かい人間観の世界が広がっているのかもしれない。

ところで、（特別）支援教育が充実している学校には、いじめ、不登校、学級崩壊が極端に少ないことに気づいた。必然かもしれない。



「著作権保護コンテンツ」

私は がんもくガール



合同出版

「著作権保護コンテンツ」

おこだでませんように

くすのき しげのり・作 石井聖昌・絵



ご静聴ありがとうございました。

少しでも参考にしていただけたら、嬉しいです。

伊東市立西小学校
通級指導教室担当

佐藤るり子・佐藤久美子

